

平成27年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 校訓「誠実・勤勉・創意」を基本とする教育活動を通して、健康で人間性豊かな実践的技術者を育成する |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 基礎学力の定着と学習意欲の向上をはかる 2 基本的生活習慣の確立と定着をはかる 3 ものづくりを通して職業観・勤労観を育成し、進路実現をはかる 4 地域に開かれた学校づくりを推進する |
|------|--|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 10名 |
| | 生徒 | 8名 |
| | 事務局(教職員) | 17名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | |
|-------------|---|---|--|--|---|-----|--|--|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (1 月 2 1 日 現 在) | | | 実 施 日 平 成 2 8 年 2 月 1 5 日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒は穏やかであり、授業も円滑に行われている。 少人数授業や個別補習指導などにより基礎学力の定着を図っている。 生徒のやる気をさらに引き出し、生徒が主体的に学ぶ授業を展開するため、教科間で連携して生徒の学習意欲が向上するための研鑽を積む必要がある。 | ○学力向上を目指した授業の工夫改善 | ①指定校事業などによる研究授業の実施及び「授業見学推進月間」等による教員間の授業見学の推進 ②教員・生徒への学習意欲に関するアンケートの実施及び分析 ③基礎学力を向上させるための工夫した授業の取組 | ①研究発表や公開授業における成果及び見学教員数 ②生徒アンケートによる授業満足度 ③成績優良者数、成績不振者数 | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程指定研究事業の取組において、観点別評価に関する研修を実施した。また、未来を拓く学びプロジェクトの研究開発校として13名の教員が研究授業を行った。授業力の向上と評価の改善をすることができた。 授業について、75%の生徒がわかりやすいと回答し、進度についてもほぼ適切であるとの回答が中心であった。 成績優良者(2学期の成績の平均が8.0以上)は昨年度比1.2%増加した。成績不振者は前年度比11%減少した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 指定事業の取組は実施した教員だけにとどまらず、全職員に浸透させていく必要がある。 「科学の甲子園」など複数の教科・学科で取り組むことができたが、さらに垣根を越えた取組をより多く実施し、生徒間で刺激し合い主体的に学ぶ機会を増やす必要がある。 成績不振者は昨年度より大幅に減少したが、補習など粘り強く指導をするなど欠点者の減少に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業を見学して、カリキュラム等に工夫が見られ、全体的に良い流れができていと感じた。 実習が少人数で行われており、きめ細かな指導がなされていた。工業高校ならではの授業形態であり、このような授業を受けられる生徒は恵まれていると感じた。 生徒アンケートによると授業がわかりやすいと答えている生徒が圧倒的に多い。個別の授業の状況についても知りたい。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、身だしなみ、清掃など、生徒の基本的生活習慣は良好である。 生徒一人一人が高校生活に充実感を持ち、一層の基本的生活習慣の確立と定着を図るため、多面的で組織的な指導を行うことが必要である。 | ○心身の成長と規範意識の向上 | ①日常の組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等の実施 ②学校行事・HR・生徒会活動・部活動等を通じて規律ある態度の育成 | ①欠席・遅刻者数等、生活の状況 ②生徒アンケートによる学校生活満足度 | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の複数教員の登校指導・声かけ運動により、生徒の挨拶や服装指導を行った。その結果遅刻者数は前年度比9%減少した。 部活動加入率は88%である。生徒アンケートより部活動の満足度は72%である。心身の成長や規律ある態度の育成が図られたとともに生徒の居場所としての役割を果たしている。生徒アンケートより工業祭81%、修学旅行88%と高い満足度を示している。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 出席率の高さは、生徒指導部を中心とした登校指導や学年・学科の指導の効果である。今後も情報共有を活発に行い、学校全体で見守る体制をさらに強化する。 自転車競技部の全国大会出場などをはじめとする各部活動の活躍が生徒の励みとなった。今後も部活動・生徒会活動を通じて生徒の心身の成長と生徒同士の絆を深める場として機能させる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 全体的な状況はアンケートの数値からよくわかった。生徒アンケートは教員主導のものだが、例えば、生徒会が中心となったアンケートにしてみたらどうか。さまざまな要望などがあるかもしれない。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 企業からの求人数並びに大学等からの指定校数は増加傾向にある。 生徒の進路希望に対する就職内定率並びに進学決定率は高い状況にある。 女子生徒を対象とした求人数の拡大及び複雑化する大学等の受験形態への対応を図るとともに、生徒が主体的に自己の進路を選択できるよう、キャリア教育の充実を図る必要がある。 | ○進路実現100%に向けた進路指導 | ①各学年における段階的進路指導の実施及び保護者との連携の強化 ②企業訪問等による求人の依頼 ③入学時から職業意識を持たせるための講演や特別講義の実施 | ①生徒の進路意識の向上と進路実現に向けた進路説明会や三者面談などの実施 ②求人企業数 ③国や県の事業などを活用した教育活動の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> 校内でのガイダンスや説明会、個別相談を通じて情報提供を行うことができた。また大学進学者には小論文指導や補習を行った。 各学科の特色に応じて企業訪問するなど、全体で求人依頼にあたった。求人企業数1102社前年比1.2倍であった。就職希望者は100%内定した。多くの大学より指定校推薦を得ており大部分の生徒は希望校に合格することができた。 サイエンスアカデミー、みどりの再生パワーアップ事業など国や県の事業を有効に活用したほかギネス世界記録達成など専門高校の特色を生かしたキャリア教育を実践できた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 多様な職業や職種の中から自分に合ったものを見つけられる力を身につけさせるため、各学科の特色を生かした取組の中で段階を踏んだキャリア教育の充実を図る必要がある。 引き続き国や県の事業を有効に活用していくほか学校独自の企業連携を推進し、専門高校の特色を生かしたキャリア教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒は川越工業高校で3年間学んだことを活かし、希望する企業や大学に進んでいることはすばらしいことである。 引き続き、生徒が主体的に進路選択できる能力や態度を育成してもらいたい。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動をホームページ等により情報発信するとともに、日頃の学習活動を活かした地域貢献に取り組んでいる。 今後も、地域・保護者の理解と協力を得ながら教育活動に取り組むとともに、積極的な情報発信を行い開かれた学校づくりを推進する。 | ○地域・保護者との連携による教育活動 ○工業高校で学ぶ意欲を持った生徒の募集 | ①日々の教育活動のホームページへの公開 ②地域と連携した事業の実施 | ①ホームページ更新状況及び保護者アンケートによる学校への満足度 ②地域連携事業の取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> 情報教育部主催の教員向けのHP研修会を実施した。更新の回数や箇所が大幅に増え、閲覧者も増加した。 保護者アンケートにより「学校の様子が伝わっている」は昨年度比ほぼ同様だが、「十分に伝わっている」が3%増加した。 生徒会・PTAによる清掃活動や、地元企業・団体と連携したイベントを通じて地元での信頼を得た。また、生徒の地域理解や世代を超えた交流につながった。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会など知りたい情報が探しにくくなっている、また更新されていないページも見受けられる。今後もHPの改善する必要がある。 生徒会主催のボランティアや川越産業フェスタや丸広でのワークショップの開催など今後も積極的に参加し開かれた学校づくりを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域交流を通じて地域との絆が深まっている。今後も、産業フェスタや川越まつりなどをはじめ、地域に根差し、学科の特色を活かした取組を進めてもらいたい。 目的を持った生徒・保護者が多い学校であると感じている。PTAの活動も支援のし甲斐がある。これからも、生徒、教員、保護者の絆が深まる活動を望む。 |
| | | | ①体験入学や出前授業等を通じたPR活動の推進と計画的な学校説明会や体験入学による中学生及び保護者への本校理解の促進 | ①体験入学及び学校説明会の参加者数 | <ul style="list-style-type: none"> 学校案内を見やすく改訂し、中学校訪問や出前授業を計画的に行ったことにより、学校説明会(年3回)と体験入学の参加者合計で、昨年度比7%増加した。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 今後中学生の減少に伴い、入学希望者減が懸念される。中学生・保護者だけではなく中学校の教員にも情報提供を積極的に行い、魅力ある学校の取組の周知が必要である。 | |